

平成23年5月18日（水）発表
北陸信越運輸局 交通環境部
消費者行政・情報課（櫻井・太田）
（TEL：025-244-6116）

ゴールデンウィークにおける旅行動向(利用実績)について

北陸信越地域（新潟・長野・富山・石川県）におけるゴールデンウィーク（平成23年4月29日～平成23年5月8日、JR・航空国内線におきましては4月28日～5月8日）の旅行・利用動向（各交通機関）について、各事業者からの情報をとりまとめましたので、お知らせします。
（一部発表済みの情報となります。）

《各交通機関などの概要》

東日本大震災等の影響の為、全体として利用実績が低調となりましたが、交通機関によっては、駆け込み需要等により、前年を上回る状況も出ています。

（1）鉄道

◇ 管内JRの新幹線・特急列車の利用者は、JR 東日本新潟支社管内では対前年比8%減、同長野支社管内では7%減、JR 西日本金沢支社管内では4%減と、各社とも減少となりました。

（2）高速バス

◇ 北陸信越管内を発着する高速バスの利用は、GW直前の駆け込み需要等があり、対前年比6.9%の増加となりました。

（3）貸切バス

◇ 貸切バスの利用は、震災の影響で申込みが低調となり、管内全体で対前年比9.7%の減少となりました。

（4）佐渡航路

◇ 佐渡航路においては、ツアーの取り消しが多く、対前年比8%の減少となりました。

（5）国内・海外旅行ツアー

◇ 国内は東日本大震災の影響で近畿が、海外は近場の韓国が好調でした。

（6）航空国際線定期便

◇ 管内の空港において、震災の影響は見られたものの、主要路線の利用客数は対前年比3%の減少に留まりました。

（7）航空国内線

◇ 震災からの影響は見られたものの、JALは4月中旬から回復傾向が見られた結果、利用率は前年とほぼ同水準となり、ANAは間際での予約が増加し、予約状況発表時から利用率が改善しました。

1. 鉄道《JR》(4月28日～5月8日)

(1) 上越新幹線及び新潟地区の主な特急列車

○ゴールデンウィーク期間中において、上越新幹線及び新潟地区の主な特急・急行列車の利用者は、全体で41万6千人となり、対前年比で8%減少しました。

○利用のピークは、下りが4月29日(金)、上りが5月5日(木)でした。

線区別	利用者数	対前年比
上越新幹線(長岡～越後湯沢)	252,000 人	▲ 8%
信越本線(長岡～直江津)	26,000 人	▲ 10%
羽越本線(新潟～村上)	44,000 人	▲ 3%
上越線(長岡～水上)	6,000 人	▲ 15%
ほくほく線(直江津～越後湯沢)	88,000 人	▲ 7%

(対前年比同日比較)

(2) 長野新幹線及び長野地区の主な特急列車

○ゴールデンウィーク期間中において、長野新幹線及び長野地区の主な特急列車の利用者は、全体で43万人となり、対前年比で7%減少しました。

○利用のピークは、下りが5月3日(火)、上りが5月5日(木)でした。

線区別	利用者数	対前年比
長野新幹線(軽井沢～高崎)	271,000 人	▲ 6%
中央東線(上諏訪～甲府)	120,000 人	▲ 9%
篠ノ井線(長野～松本)	39,000 人	▲ 3%

(対前年比同日比較)

(3) 北陸地区(JR 西日本金沢支社管内)における主な特急・急行列車

○ゴールデンウィーク期間中において、主な特急・急行列車の利用者は、全体で38万6千人となり、対前年比で4%減少しました。

○利用のピークは、下りが5月3日(火)、上りが5月5日(木)でした。

方面別	利用者数	対前年比
京都・大阪方面(サンダーバード号など)	196,000 人	▲ 2%
名古屋・米原方面(しらさぎ号など)	86,000 人	▲ 3%
直江津・東京方面(はくたか・北越号など)	104,000 人	▲ 8%

(対前年比同日比較)

《民鉄》黒部峡谷鉄道(4月29日～5月8日)

○東日本大震災の影響により旅行を見合わせる動きが強まり、全体として対前年比が30%減少(海外からの利用者については96%減少)したものの、高速道路料金の割引期間という好条件もあり、個人客に回復傾向が見られ、当日利用者が昨年より伸びる結果となりました。

○利用のピークは、5月4日(水)でした。

	利用者数	対前年比
黒部峡谷鉄道 利用者数	46,371 人	▲30.4%
(当日利用者数)	20,629 人	5.7%
(海外からの団体利用者数)	(70 人)	(▲96.0%)

2. 高速バス(4月29日～5月8日)

○高速バスの利用実績(北陸信越 ⇄ 東京・大阪・名古屋方面)については、北陸信越全体では対前年比で6.9%の増加となりました。

○増行便の計画的な設定、GW直前の駆け込み需要が実績を伸ばした要因として挙げられています。

(発着合計による前年比)	新潟県	長野県	富山県	石川県	北陸信越
東京方面	18.9%	3.6%	▲18.2%	▲7.4%	5.5%
大阪方面	2.8%	4.8%	86.2%	—	20.9%
名古屋方面	14.6%	9.2%	▲0.2%	32.1%	9.4%
(計)	12.1%	4.9%	▲1.1%	26.8%	6.9%

(管内10事業者によるサンプル調査)

3. 貸切バス(4月29日～5月8日)

○北陸信越地域のゴールデンウィーク期間中における利用実績は、管内全体で対前年比9.7%の減少となりました。東日本大震災、それに伴う自粛ムードにより、予約のキャンセル、申込みが低調だったことが主な理由として挙げられています。

	新潟県	長野県	富山県	石川県	(北陸信越)
対前年比	▲10.0%	▲8.9%	▲10.8%	▲9.8%	▲9.7%

(北陸信越運輸局管内の主要191事業者・車両数2,124両によるサンプル調査)

○事業者アンケートによれば、利用方面・利用目的として多いものは次のとおりとなります。今年においても、例年同様、利用目的は学校(クラブ・合宿)と冠婚葬祭がどの県においても多くを占めています。「震災とはあまり影響のない学校関係・冠婚葬祭ばかりで、観光関係はほとんどなかった」という感想をいくつかお寄せ頂きました。

[左から多い順となります]

(新潟県)	【方面】	新潟・関東方面	【目的】	自然
(長野県)	【方面】	長野・関東方面・近畿方面・東海方面	【目的】	温泉・自然
(富山県)	【方面】	富山	【目的】	江・自然(同数)
(石川県)	【方面】	石川・近畿方面・富山	【目的】	自然

4. 旅客船《佐渡航路》(4月29日～5月8日)

○佐渡汽船各航路を発着する旅客船では、対前年比8%減となりました(個人客に関しては、対前年比3%減に留まったものの、ツアーの取り消しが多かったとのことです)。また乗用車航送におきましても対前年比5%減となりました。

○福島県の被災地から来島された方が多く、福島県の個人客が対前年比25%増とのことです。

(1)旅客利用実績

航路名		利用者数	対前年比
新潟～両津	カーフェリー	45,080人	▲7.4%
	ジェットfoil	21,783人	▲3.8%
	(小計)	66,863人	▲6.2%
小木～直江津(カーフェリー)		8,497人	▲14.2%
寺泊～赤泊(高速船)		1,728人	▲27.5%
合計		77,088人	▲7.8%

(2)乗用車航送実績

航 路 名	利用台数	対前年比
新 潟 ～ 両 津	5,494 台	▲ 4.1%
小 木 ～ 直 江 津	1,501 台	▲ 7.3%
合 計	6,995 台	▲ 4.8%

5. 北陸信越地域発の国内・海外旅行ツアー(4月29日～5月8日)

○下表のとおり、事業者の感触としまして、国内・海外旅行共に東日本大震災の影響で厳しい状況となりました。海外旅行については「特に震災の影響は無かったと思う」というような意見もいくつか寄せられ、国内旅行よりは、若干感触が良くなっているようです。

○なお、事業者によれば、国内旅行では、温泉・テーマパークに人気がありました。旅行方面としては近畿方面が一番多く、次いで関東でした。毎年一番人気のある関東ですが、今回は、「東日本大震災の影響を受け自粛」「GW前の首都圏の計画停電及び福島原発問題等有り、何となく関東へは出かけ辛い雰囲気だった」等の意見が挙げられ、伸びが悪かったようです。海外旅行では、旅行先として、近場の韓国・ハワイに人気がありました。

(国内旅行 感触)	非常に良い	良い	やや良い	前年並み	やや悪い	悪い	非常に悪い
北陸信越全体	0%	0%	0%	13.6%	27.3%	27.3%	31.8%

(海外旅行 感触)	非常に良い	良い	やや良い	前年並み	やや悪い	悪い	非常に悪い
北陸信越全体	0%	0%	13.0%	30.4%	17.4%	17.4%	21.7%

(管内の国内旅行22事業者(営業所)・海外旅行23事業者(営業所)によるアンケート結果)

6. 航空国際線定期便(4月29日～5月8日)

○管内の各空港における国際線の利用は、対前年比3%減でした。

○事業者の印象として、震災の影響が挙げられているものの、「個人需要は安定」「外国籍客も戻りつつある」等、良い印象もいくつか挙げられています。

	新潟県	富山県	石川県	北陸信越
(対前年比)	1%	▲ 7%	▲ 5%	▲ 3%

(管内3空港9路線サンプル調査)

7. 航空国内線(4月28日～5月8日)

○東北・北陸方面の利用実績は次のとおりです。

○下りのピークは4月29日(金)、上りのピークは5月5日(木)でした。

○震災の影響により予約の入りか例年より遅かったものの、4月中旬から回復傾向が見られた結果、利用率は前年とほぼ同水準となりました。

JAL 国内線	提供座席数	前年比(%)	総旅客数(人)	前年比(%)	利用率(%)
東北・北陸方面	138,252	71.7	104,713	83.2	75.7

(JAL GROUP NEWS「JALグループ2011年度ゴールデンウィーク期間 お客さまご利用実績」より)

○東北・北陸方面の利用実績は次のとおりです。

○下りのピークは4月29日(金)、上りのピークは5月5日(木)でした。

○東日本大震災の影響が見られるものの、間際の予約が増加し、予約状況発表時から利用率は改善しました。

ANA 国内線	提供座席数	座席数前年比	旅客数	旅客数前年比	利用率
東北・北陸方面	179,420 席	90.6%	115,496 人	88.5%	64.4%

(ANA NEWS「2011 年度ゴールデンウィーク ご利用実績」より)